子ども大学みよしの実践 ～小学生・中学生・大学生の交流～

1 実践のねらい

(1) 小学生、中学生、大学生の三者が、講義、レクリエーション、グループワークなど同一の体験をすることで、普段の家族や学校生活にはない、他者とのコミュニケーションの図り方を学ぶ。

(2) ジュニアリーダー、レクリエーションリーダーとしての技能や心得を学ぶための研修会を開催する。それぞれが以降の講義での成果発表と成果の活用方法を検討し、レクリエーションや講義中のアイスブレイクを計画・実施することで、子供向け事業の運営ノウハウの一端を学ぶ。

2 事業計画

(1) 子ども大学みよしプログラム

月日	講　義　名
6 ／25（土）	講義１「パネルシアター制作実演体験」【淑徳大学埼玉キャンパス】
7 ／28（木）	講義２「総合病院の仕事に学ぶ」【イムス三芳総合病院】
8 ／19（金）	講義３「お金の教室・銀行の仕事」【埼玉りそな銀行鶴瀬支店】
9 ／10（土）	講義４「ＴＶ番組のできるまでを学ぶ」【Ｊ－ＣＯＭ北関東川越局】 講義５の事前学習　小江戸川越・菓子屋横丁周辺散策
11 ／19（土）	講義５「日本の４７の魅力・観光を学ぶ」【淑徳大学埼玉キャンパス】

(2) ジュニアリーダー・レクリエーションリーダー研修会

ア　期日：８月２日（火）

イ　会場：淑徳大学埼玉キャンパス

ウ　内容：講義と実技研修

※　他にスタッフ事前説明会、事後研修会を実施

レクリエーションの研修を受ける学生スタッフ

3 事業内容

(1) 学生スタッフとして小学生と交流

学生スタッフとして子ども大学の運営に携わりながら小学生と交流する。

(2) ジュニアリーダー・レクリエーションリーダー研修の受講

ア　講師：日本レクリエーション協会インストラクター
小山　亨二　氏

イ　内容：子どもの特性、ジュニアリーダー論の講義
レクリエーションの意義・手法・実施についての実技研修

レクリエーションの時間を運営する大学生スタッフ

(3) 講義内でのアイスブレイク、レクリエーションの担当

ア　研修終了後に中学生・大学生スタッフでミーティングを実施する。

イ　移動教室時におけるバスでのレクリエーション、修了式でのレクリエーションを計画・実施する。

4 成果と課題

(1) 成果

ア　中学生が入ったことで、より柔らかく活発な雰囲気となった。大人では気づかないことに中学生が気づいて、小学生たちを上手くサポートしてくれた。小学生も中学生と関わったことでコミュニケーションをとる楽しさを感じていた様子だった。

イ　子ども大学に参加した小学生が「卒業後も子ども大学を続けたい」という意見が普段より多かった。卒業を残念がる小学生の前で中学生が生き生きと活動するのだから、当然の結果とも考えている。自主的な学びの芽生えとしてこの声を大切にしたい。中学生が参加したことによる最たる成果とも考えており、町における子ども大学卒業後の新たな週末支援事業のテストケースともなった。

(2) 参加した子供や中学生、大学生、保護者の感想

ア　子供（小学生）の声
「今年で卒業だけど中学生スタッフでも参加したいから、この取組を続けてほしい。」

イ　中学生スタッフの声
「子供たちがどうすれば楽しめるかを考えていくのも楽しかった。」

ウ　大学生スタッフの声
「学校とは違った場で小中学生の反応が見られて面白かった。注意や声のかけ方など、これからなろうとしている教師とは違った立場で考える良い機会になった。」

エ　保護者の声
「様々なタイプの人と接して対応の仕方を覚えられる良い取組である。」

(3) 課題

ア　参加者の募集方法
高校生が集まらず、また町内全ての中学校から生徒を集めることができなかった。若い世代の耳目を集める広報内容や広報手段の検討が必要である。

イ　生徒、学生のスケジュール調整
多忙な中学生と大学生の日程調整が難航した。授業、学校行事、部活動、塾などに重ならない日程を組めず、事業当日にスタッフ不足になる時もあった。

ウ　事業主旨の徹底と事前研修の必要性
大学生なら即応できるスタッフ業務も、中学生にとっては対応が難しい面もあった。スタッフというより参加者になってしまうことも見受けられた。従来のスタッフ説明会より細やかな接遇研修の実施など事前学習が必要である。

エ　実行委員会における機能の拡充と安定化
学校や家庭以外の楽しく居心地のいい場所と感じてもらい、また、スタッフとして継続参加を希望する声に応じて、青少年の交流の場としての機能を持たせる必要性も感じている。そのためには実行委員会の機能を拡充し、子ども大学の運営を安定化していくことが必要である。学生スタッフのアイデアや行動力を生かすための人手や時間を増やしたい。さらに、地域における子供の学びのために協働してくれるボランティアスタッフなどの集団づくりが必要とも感じている。

講義の前後に打ち合わせをするスタッフ

子供たちを引率するスタッフ

子供たちとレクを楽しむ中学生スタッフ